

# 令和7年度ネットリサーチ「『いばらきポリス』の運用」に関する調査結果報告書

## ■結果のポイント

- スマートフォン向け防犯アプリ「いばらきポリス」の認知状況については、「知っていて、利用している」(11.2%)と「知っているが、利用していない」(23.4%)を合わせた【知っている】が34.6%となっている。
- 「いばらきポリス」の効果的な広報手段としては、「県や市町村など自治体が発行する広報紙」が24.7%で最も高く、「免許更新時の呼びかけ」が20.6%、「テレビ」が20.4%と続く。

## ■調査結果の概要

### 1 スマートフォン向け防犯アプリ「いばらきポリス」の認知状況

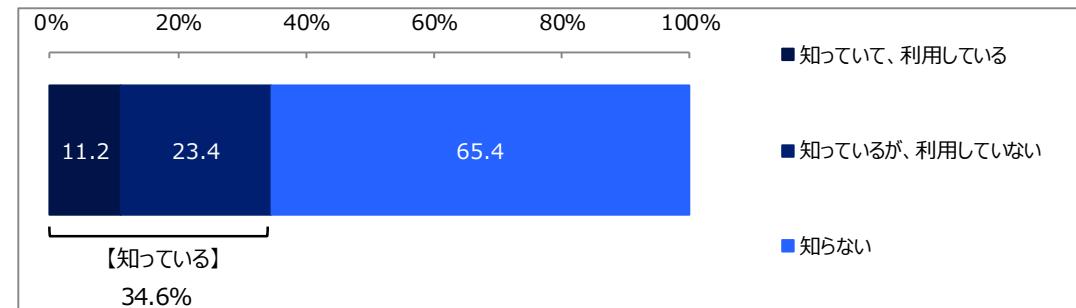
◆ 「知っていて、利用している」(11.2%)と「知っているが、利用していない」(23.4%)を合わせた【知っている】が34.6%となっている。

次に、「いばらきポリスの運用」についてお伺いします。

Q1.茨城県警察では、犯罪発生・不審者情報等のマップ表示、防犯ブザー・ちかん撃退機能などを搭載した、スマートフォン向け防犯アプリ「いばらきポリス」を公開しています。

あなたは「いばらきポリス」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
知っていて、利用している	11.2	112
知っているが、利用していない	23.4	234
知らない	65.4	654



(参考)

「いばらきポリス」について、詳しくは茨城県警察ホームページをご覧ください。

茨城県警察HP : [https://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01\\_safety/security/ibarakipolice.html](https://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01_safety/security/ibarakipolice.html)

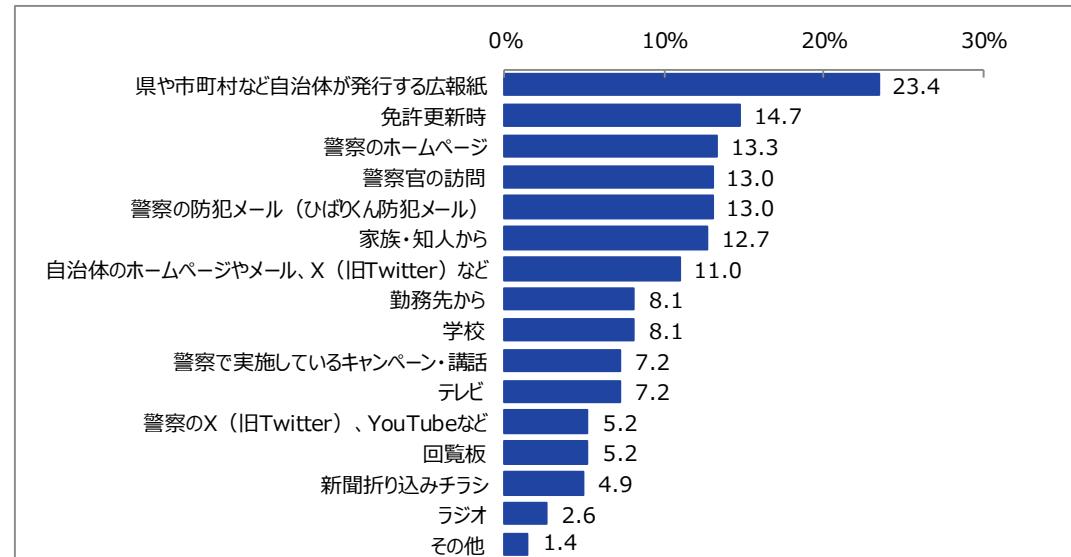
## 2 「いばらきポリス」の認知経路

◆ 「県や市町村など自治体が発行する広報紙」が 23.4%で最も高く、「免許更新時」が 14.7%、「警察のホームページ」が 13.3%と続く。

(Q1で「知っていて、利用している」「知っているが、利用していない」と回答した方へ)

Q2.あなたは、「いばらきポリス」をどのようにして知りましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	346
県や市町村など自治体が発行する広報紙	23.4	81
免許更新時	14.7	51
警察のホームページ	13.3	46
警察官の訪問	13.0	45
警察の防犯メール（ひばりくん防犯メール）	13.0	45
家族・知人から	12.7	44
自治体のホームページやメール、X（旧Twitter）など	11.0	38
勤務先から	8.1	28
学校	8.1	28
警察で実施しているキャンペーン・講話	7.2	25
テレビ	7.2	25
警察のX（旧Twitter）、YouTubeなど	5.2	18
回覧板	5.2	18
新聞折り込みチラシ	4.9	17
ラジオ	2.6	9
その他	1.4	5

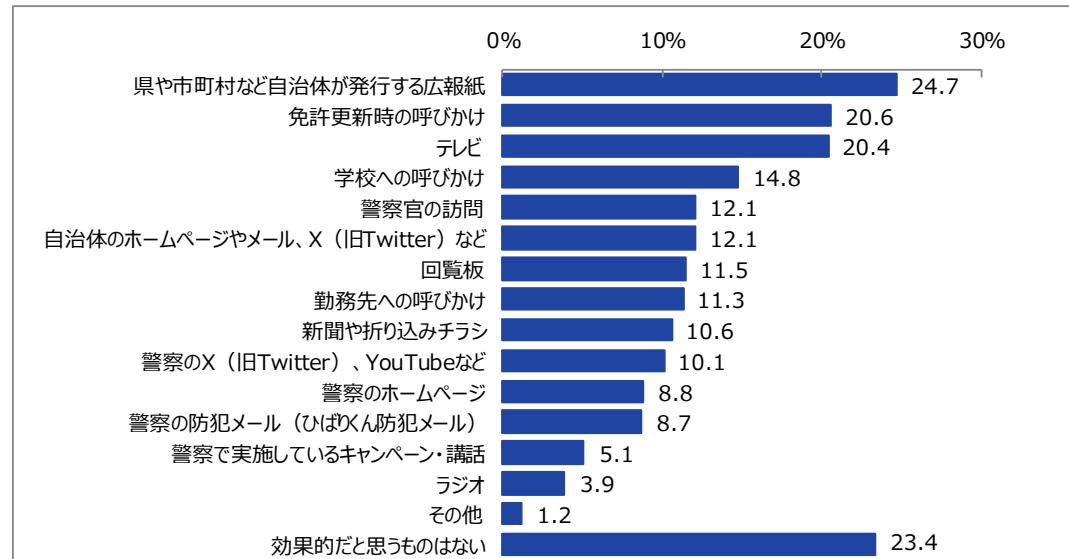


### 3 「いばらきポリス」の効果的な広報手段

- ◆ 「いばらきポリス」の効果的な広報手段としては、「県や市町村など自治体が発行する広報紙」が24.7%で最も高く、「免許更新時の呼びかけ」が20.6%、「テレビ」が20.4%と続く。

Q3.「いばらきポリス」の利用を呼び掛ける場合、あなたはどのような手段が効果的だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
県や市町村など自治体が発行する広報紙	24.7	247
免許更新時の呼びかけ	20.6	206
テレビ	20.4	204
学校への呼びかけ	14.8	148
警察官の訪問	12.1	121
自治体のホームページやメール、X（旧Twitter）など	12.1	121
回覧板	11.5	115
勤務先への呼びかけ	11.3	113
新聞や折り込みチラシ	10.6	106
警察のX（旧Twitter）、YouTubeなど	10.1	101
警察のホームページ	8.8	88
警察の防犯メール（ひばりくん防犯メール）	8.7	87
警察で実施しているキャンペーン・講話	5.1	51
ラジオ	3.9	39
その他	1.2	12
効果的だと思うものはない	23.4	234



## ■調査の目的

茨城県警察防犯アプリ「いばらきポリス」では、地図機能等を用いて犯罪・不審者・交通事故等の発生状況を公開しているほか、防犯情報や行方不明者発見のための協力呼び掛け等を発信しているところ、県民の利用拡大を図るため、認知度・経路等を把握する必要がある。

## ■実施概要

- 実施期間：令和7年12月5日～12月15日
- サンプル数：茨城県常住人口調査（令和7年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		108	248	92	365	187	1,000
性別	男性	56	127	49	189	99	520
	女性	52	121	43	176	88	480
年代別	18～29歳	16	42	16	71	34	179
	30歳代	15	42	16	61	29	163
	40歳代	21	53	19	80	40	213
	50歳代	28	61	21	86	44	240
	60歳代	28	50	20	67	40	205

県 北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県 央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿 行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県 南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県 西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

- 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
- 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
- 男性18～29歳の回収件数は、全ての地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性30歳代で「県北」3サンプル、「県央」9サンプル、「鹿行」3サンプル、「県南」15サンプル及び「県西」10サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。
- 女性18～29歳の回収件数は、「県西」地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、女性30歳代で「県西」1サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。